



どう だん つ つ じ

満天星

第5号

令和2年8月26日

節 目 : しなやかな強さを身につける

校 長 氏橋 俊司

4月以降コロナ禍のなか、学校行事などさまざまな教育活動において制限（縮小や統合、廃止や延期など）をしています。現状を考慮するとやむを得ないのですが、実に寂しい限りです。しかしこのような状況下で、修学旅行や運動会、学習発表会など、どのように内容や方法を工夫したら児童に達成感や自己有用感が持たせられ、主体性が伸ばせるのか、教職員は日々頭を寄せ合い相談をしています。言わずもがなそれは、これら各種行事が児童にとって大きな意味や意義をもつからです。2学期以降も例年通りの活動とはなりません、皆さまのご理解とご支援をお願い申し上げます。

夏休みが終わり、いよいよ2学期の始まりとなりました。一年間にはこうした『節目』がいくつかあり、児童も私たちも「よし。これから新たなスタートだ。」と気持ちを奮い立たせます。改めて考えてみると、節目は人生にとって大きな存在ではないでしょうか。節目があるから、人はがんばれたり、目標が持てたり、成長を実感できたりします。節目が人を成長させてくれると言っても良いかもしれません。そして学校での節目には、学期以外にも、児童会活動や学校行事などの大きな節目もあれば、朝の会や授業の終始の挨拶などの小さな節目もあります。

ところで、「地震が起こったら、竹藪へ逃げろ」皆さまもよくご存じの言葉ですが、竹はそれほど強く、しなやかで逞しい植物です。その強さの秘密は、たくさんの『節』があり、竹の幹を支えているところにあります。また竹の根が互いに地面の下でしっかりとつながっているのも、もう一つの秘密です。ですから竹は、大風が吹いても大雪が降りかかっても、ポキンと折れることもなく、柔らかに曲がり、そして元のように戻ります。4月以降、本校児童の姿と竹の姿とを重ね合わせて見るなかで、私はしなやかな強さや逞しさを今以上に育てていきたいと感じています。児童が必要以上に周りの目を気にしたり、自信が持てず間違えることを避けたりする場面に幾度か出会ったからです。節目節目で可能ないろいろな経験を積ませること。不十分な状況下でも、周りの大人が認め励ますこと。このことを再認識していきたいと思います。

毎日の授業で児童の学力向上を図ることとあわせ、学校生活でのこのような『節目』や『節』を上手に活用して、どう工夫すれば児童にとってより良い教育活動となるのか、今後も児童を中核に置いた改善を図っていきます。コロナに打ち勝ち、実り多き学期となりますよう、皆さまの一層のご協力をよろしくお願いいたします。

***** 皆さまへのお願い *****

コロナウィルス感染症に関わり緊急な連絡については、今後もおたよりやマチコミメールにてお知らせします。今後の状況から、本校においても感染者が確認されることがあるかもしれません。誰もが感染するリスクはあります。憎むべきは人ではなく病気であり、いざというときでも互いに支え合い、励まし合える仲間となれるよう、地域や家庭、学校など社会全体で一人一人の人権を大事にしていきたいものです。